

平成25年度 第1回八尾市産業振興会議 議事録

日 時	平成25年7月5日（金）午前10時00分～12時00分
場 所	八尾商工会議所会館 3階 大ホール1
出席者	<p><委員> 川江委員、周防委員、須山委員、鶴坂委員、寺西委員、中浜委員、林委員、東口委員、藤原委員、文能委員、山崎委員、山田委員、横山委員 計13名</p> <p><事務局> 村上部長、馬場次長、小谷参事、徳光室長、市川課長補佐、主井係長、阪口係長、古賀係長、松尾 計9名</p> <p><オブザーバー> 八尾商工会議所・川野課長 計1名</p> <p style="text-align: right;">総計23名</p>

－事務局による司会で次第に沿って進行－

1. 開 会

・産業振興会議委員17名のうち、出席者13名、欠席者4名であり、八尾市産業振興会議規則第3条に規定する過半数の委員の出席により、会議が成立している旨の報告。

2. 配布資料の確認

3. 経済環境部長あいさつ

4. 委員紹介及び事務局紹介

5. 議 事

－座長による議事進行－

（1）産業振興会議の進め方、本年度のスケジュールについて

事務局より、資料1、資料2に沿って平成24、25年度の産業振興会議の進め方、本年度のスケジュールについて説明。

【質疑応答・意見交換】

座 長： 事務局の説明に対して意見、質問等はないか。（委員より意見なし）

（2）産業集積検討部会のこれまでの検討内容について

事務局より、資料3に沿って、産業集積検討部会のこれまでの検討内容について説明。

【質疑応答・意見交換】

座 長： 昨年度から初めて、2カ年にわたり、「産業集積の維持・発展」という大きなテーマを設定し、議論を行うこととなった。今年度は、2年間、部会で議論された内容をまとめることになる。事

務局の説明に対して、意見・質問があればいただきたい。

委員： これまで部会において各委員の皆様から貴重な意見をいただいた。やるべきことははっきりしてきたと思うが、今後、具体的に施策に落とし込んでいく作業が必要になってくる。委員の皆さんには、これからも型にはまらず、ユニークな意見を出していただきたい。

委員： 資料を見て、改めて、事業者間の連携という視点の大切さを実感した。近畿経済産業局では、企業立地の専門窓口を設置している。今年、工業団地への誘致相談が増えてきており、景気がよくなってきた兆しが見えてきている。住工混在が原因で移設を考えている企業が多いとも聞いている。しかし、逆から読み取ると、今、工業集積のある地域の集積維持に取り組むことは、アドバンテージであり、事業者間の連携を促進することにより、集積地域に魅力づけすることになり、企業がその地域に長く根付くような仕組みができれば、いいのではないかと。

委員： 大阪府の産業振興に携わる職員として、八尾市の産業振興会議は、先駆的であり、体制がしっかり整っていると思う。中小企業が地域の活性化に果たす重要な役割をしっかりと認識されたうえで、地元の課題を自ら見出して、地元の総力を挙げて解決していくところが素晴らしい。資料3の連携については、「集まる・知りあう・使いあう・創りあう」という点は、時流に沿ったものであり、大阪府の取り組みでも、資金面での支援も大切だが、事業者の皆様プラットフォームを創っていくような、「つなぐ」取り組みを重視している。大阪府で作成・管理している「つ・な・ぐ」ポータルサイトや、セミナーと交流会を兼ねたMOB I O-C A F E（モビオ・カフェ）の取り組みなども活用いただければと思う。また、事業者間の連携を支援する上で、八尾市の取り組みにもこれら大阪府の取り組みを参考にいただければと思う。

委員： 資料にあるように連携の必要性を感じていない企業が多い。「時間に余裕がない」ということが一番大きな要因ではないか。何を持って連携すればいいのかわからないといった連携の意義が浸透していないように感じる。事業拡大を考えている企業は多いが、事業拡大や売り上げ向上の手段のひとつとして連携があることを多くの企業は気づいていない。人口減少社会の中において、大企業からくる仕事を待って、請け負うだけの中小企業では事業を維持していくことができない。商店でも、人口が減少することにより、買い手が減る。今までのサービスや仕事のやり方だけでは今後、事業を維持できない。市場が縮小していく中で、連携によって新たな事業やニーズを生み出していかないといけない。そのような意味でも「創りあう」部分について、もっと深く議論していかないといけない。

委員： 資料3にもあるように、事業者間等の連携における5つの視点が非常に重要であると思う。八尾でも、校区まちづくり協議会で校区ごとの課題が話し合われていると思うが、議論して課題が見えてくることがあり、課題を共有することが大切と思う。そういった情報を共有する場を提供することが大切であり、事業者間等連携の中でも、工業という視点、商業という視点、それぞれからまちづくり全体を考え、具体的な提案も考え、委員として各々ができることを具体的なカタチにしていく必要があると感じた。

座長： 商業者の立場で、何か意見等があればいただきたい。

委員： 部会で様々な意見が出て、今後は、この意見をいかに具体的なカタチにしていくか。平成24、25年度の2年間で、テーマを設定しているが、この2カ年で終わるのではなく、十分に議論できなかったものについては、継続審議し、またこの会議の提案で取り組むことができなかったものについては、持ち越し、一つ一つを確実に実現していくような長期的な視点で取り組んでいくほうがいいのではないかと。具体的にこの会議の提案を受けて、例えば、アドバイザーを設置した

り、交流の場を設けるに至ったなど、具体的なカタチで成果が生まれることを期待したい。

座長： 座長として、会議の進め方についても考えていきたいと思う。事務局としてはどうか。

事務局： 一步一步進めていくことが大切であり、我々もそういった意見を踏まえたくて、次の産業振興会議での議論の進め方なども考えていきたい。

委員： 地域商店街活性化事業の補助金の申請も市の職員にコーディネートしてもらい、実際に採択された事業もある。こうして活用できる補助金を積極的に取りに行くことも、大切である。我々、商業者も地域からの連携の要望をはじめ、外部からの連携を積極的に取り入れようと試みている。今、高齢クラブ連合会と連携し、「ぶらりファミリーロード」という企画も考えている。

座長： 八尾市は商工会議所と市が同じ施設に入っており、連携も進んでいると思うので、委員の言うように、国や府などの支援策を紹介して、活用できるように一步踏み込んだ支援をしていくこともお願いしたい。

委員： 学習会でもあったように、まずは何かをやってみる。それを行政の人がサポートする。大きいことは出来ないが、始めてみるのが大切だと感じた。

事務局： 場を設ける必要性の部分について、八尾市でも実現に向け、検討を進めている。委員からいただいた様々な提案を一つでも多く、実現していきたいと考えている。

委員： これまで部会で様々な議論をしてきた。その議論の多くは、産業を担っている事業者の視点であり、生活者の視点を反映しきれていないのではないかと思う。八尾市中小企業地域経済振興基本条例にもあるように八尾を盛り立てていくのは、商業、工業の担い手である事業者だけではない。八尾の産業を発展、維持させていくには、生活者にも、操業環境など理解と協力をいただかないといけない部分がある。

例えば、パート・アルバイトなど、工場が地域にあることによって、雇用が生まれている。工場がなくなると働くところがなくなってしまふ。工場がなくなることによって、プラスもあれば、マイナス面も出てくる。こうした面からも、生活者の視点は非常に重要であり、どうすれば工場と住民との良好な関係が築けるかなど、生活者の視点に立った意見などを頂戴したい。

委員： 八尾は住工混在のまちなので、企業は、地域という意識をもっと持たないといけない。K E S の取り組みをはじめ、地域と一緒にあって取り組みをしていかないといけない。まち自体の活気がないと、子どもたちも夢がない。こうしたことは、事業をしている者の責任でもあるように感じる。住工が混在していることが八尾らしいと捉え、住民と事業者が一緒になって活気づいていくことがまちの活性化につながると思う。

委員： まちというのは、商業地があり、工業地があり、住宅地があり、みんなが持ちつ持たれつでまちは成り立っている。個人的な意見として、高安の山手に住んでいるが、建売住宅が増加し、世帯数が増える一方で買物をする店が増えない。特に歩いていける範囲内に店がない。皆が車で大型店に買物に行く。もう少しバランスよいまちづくりができないものかと思う。

委員： 生活者の視点という点では、ボランティアや市民団体、消費者団体、NPOなど様々な意見を取り組んで活用すればいいと思う。商業まつりで「やおうち」があるが、ゆるキャラを呼び込んで、子どもや親御さんを呼び込むような集客方法も必要である。日ごろから事業者の方々には、住民や消費者から何をしているかわかりやすく、店に入りやすいような取り組みをしていただきたい。

座長： ゆるキャラの話が出たが、八尾にあるゆるキャラを活用すればいい。地域商業の対面販売の良さが廃れずにあるということが大事だと思うが、中々、存続も厳しい状況にある。消費者と商業者

のマッチングの課題を克服するためにも、連携することが必要なのではないかと思います。

(3) その他報告事項について

・参考資料「平成24年度産業集積検討部会中間報告書」、資料4-1、4-2について事務局より説明。

【質疑応答・意見交換】

委員： 八尾市でイベントや催しの一番の情報発信のサイトや媒体は何になるか。

事務局： 八尾市のホームページや市政だよりになる。

委員： リアルタイムでの情報発信についてどう考えているのか。

委員： 商店会連合会に加盟している商店街はそれぞれでホームページを持っている。ファミリーロードでいうと **Facebook** の活用もしている。八尾市が管理する八尾あきんど **On-Do** ネットには、登録数も多く、地域商業のイベントなども集約されている。また各商店街ではチラシも活用している。コンテンツ情報の充実に向けた取り組みのひとつとして「マンスリーこれどや」という特集も八尾市がFMちゃおと共同して行っている。取り組みが見えにくいといった話がでたが、もっと情報発信をしようと我々も力を入れている。

委員： 消費者団体での情報発信については、FMちゃおやくらしの情報で行っている。また連携を密にして、各地域や事業者のご協力により情報発信を行っている部分もある。事業者・消費者・行政のつどいが一年に一回あり、そこでそれぞれの立場で意見や情報を共有する場を設けている。

委員： ものづくり企業でいえば、中小企業サポートセンターで補助金の申請や相談などができるコーディネーターが配置されている。商業に関していえば、中小企業サポートセンターの役割は弱い。商工会議所では、補助金の申請や相談業務など、アドバイザーの設置などサポートする体制は整っているのか。

オブザーバー： 専門相談員という形で、中小企業診断士を配置している。また、商工会議所の事務局の職員で経営指導員を12名、配置しており、ベテランから若手まで様々だが、ベテランの者は、補助金の申請のアドバイスができるので、事業者をサポートする体制は整えている。

委員： 商業でもそうだが、補助金の申請には膨大な資料作成が必要であり、本業が忙しい事業者にとって、非常に億劫なものである。だから、的確にアドバイスができる人がいれば非常に助かる。全部を代行するのではなく、書き方などを一緒に考えてもらい、今後、事業者が申請をできる訓練をすることが大切である。また、申請にあたっては自社の強みや経営について見つめなおすことにもつながり、最終的には会社のためにもなる。商工会議所も、事業者のサポート面をもっと強化してほしい。

それと、中小企業サポートセンターでは大阪府の「匠」というものの取得申請に力をいれている。また、工業、商業ともに申請ができる「経営革新計画」の承認をとっていきけるような企業をたくさん作っていくことが大切であり、こうした企業を増やすことが産業集積の維持発展に向けた具体的な取り組みのひとつではないかと思う。

資料3にもあるように、部会で議論された内容が非常にいいものにまとまっており、方向性も見えてきた。これを実際に進めるためにも、実行する主体は、八尾市だけではなく、我々、事業者でもあり、市民でもあり、一体となって取り組んでいかないといけない。すべてを一気に進めることは出来ないと思うが、できることから取り組んでいけばいい。

事業者が取り組んでいるイベントも、我々、工業者にも情報提供していただきたいし、逆もし

ていきたいと思う。実践する側は我々、事業者であり、お互いに協力し合って、取り組めるところは積極的に取り組んでいきたいと思う。

委員： 資料3の5ページの表にもあるが「集まる」「知りあう」「使いあう」「知りあう」というのは、日本全国どこにでも通じるもの。八尾版みたいに八尾に範囲を限定したとすれば、範囲がすごく狭くなるような気がする。範囲が狭すぎると参加者ががっかりすることもある。異業種交流の考え方として「会社の金や時間を使う社長は多いが、交流を仕事とするな」というものがある。私の場合、異業種交流は個人のライフワークとして参加している。だから、本業の金型の仕事につながらない交流がほとんどである。もし交流に個人として参加するならば、八尾に範囲を限定しても範囲が広がるのではないか。考え方のひとつとして、八尾という範囲を入れるか、入れないのかという視点も必要ではないか。

委員： 確かに場を設定する際に、範囲を狭めれば、その分、足りない人材や能力というのは出てくる。しかし、一方で、範囲を広げれば広げるほど、様々な人材が集まるが、内容が抽象的になる。例えば、校区まちづくり協議会の話しでも、八尾のまちを良くしようと思う人が本業の忙しい中でも、その人がかかわれる部分だけ、かかわることができるような仕組みというのは、いくらでもあると思う。

委員： 八尾のまち全体を意識して取り組むことが大切。八尾には色んな方がいる。我々が把握できていないところで、市民でも、商業でも、工業でもまちをよくしようと様々な努力をしている人は多くいる。これを発掘し、結びつけるということが大事のように思う。

例えば、高安の山手で買い物するところがないという課題に目を付ければ、個人商店がいき、そこで商売ができるかもしれない。そういった課題をたくさん見つけ出し、点在しているものを線で結び付けていくことを八尾の範囲でやっていくことが大切に思う。

先日、新潟県燕市に訪問した。金属研磨の研修する施設「磨き屋一番館」というものを行政が作り、若者に技術を継承する取り組みを行っていた。地場の産業である「磨き」の伝統技術を残していくためのひとつの手法を見学してきた。燕市はこうした独自の取り組みをしているが、もし八尾市がこうした取り組みを行う場合には、行政側から与えるのではなく、現場から課題を抽出して、本当に必要とされる施策を展開していくことが求められる。幸い、八尾市には産業振興会議があり、産業に対する想いを持った人がいる。こうした現場の声から、課題を抽出し、解決に向けた取り組みを展開していけばいい。まずは、八尾市に限定して考えていけばいい。

また八尾市と燕市で今後、何か連携していくことはできないかという話にもなった。そうなったときは、行政に力を借りて、様々な取り組みを連携して取り組んでいければいいと思う。

6. 産業政策課長あいさつ

7. 閉会

以上